

# 九州4泊5日山旅 ～由布岳、久住山、阿蘇山、祖母山～（個人山行）

（報告） J. Fkzw.

◎山行日：2022年11月7日（月）～10日（木）

◎メンバー：J.F.（単独）

会社の勤続30年の休暇をもらい、4泊5日で九州の山を登ってきました。11月初旬の紅葉の時期で、さらに全国旅行支援で費用的にも好機でした。とはいえ直前まで仕事のリスクがあったため、飛行機や宿泊など具体的な計画は休暇に入ってから直前手配の急ごしらえの旅行でした。

## ■1日目 11月7日（月） 由布岳（1583m）

早朝に成田発の飛行機で、無事に大分空港に9:30着。レンタカー屋さんでプリウスが用意されていました。今回、やまなみハイウェイの絶景ドライブもひとつの楽しみです。まずは最初の目的地である由布岳の登山口へ約1時間走ります。別府の町に入ると温泉の白い湯気が、あちこちで立ち上っていて、温泉の数の多さ、密度を実感。坂道を登っていくと看板に「龍巻地獄」、続いて「血の池地獄」と出ています。ひえー、地獄めぐりは、こんな坂の上にあるのか。レンタル自転車でまわろうかとも考えていましたが、これはかなり厳しいな、と考えながら通り過ぎました。峠を抜けると由布岳登山口の駐車場に到着。由布岳との初めての対面、豊後富士と呼ばれる均整の取れた美しい姿に気持ちが上がります。

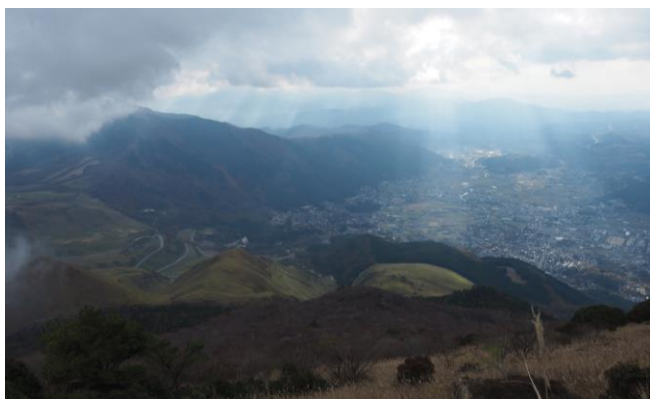


由布岳（豊後富士）

さて登山開始。11:50、気温15℃。草原から樹林に入っていきます。歩き始めて30分ほどは黄と赤の紅葉が美しかったです。そこから上の紅葉は終わっていました。あと2週間早かったらとても綺麗だったでしょう。つづら折りの道を登って標高を上げていきます。下りて来た60歳くらいの男性登山者と挨拶を交わす。「頂上まですぐだよ。由布岳は初めて？登りごたえあるよ～。御鉢巡りしてきたけど、自分もこんなに本格的な山だとは知らなかった。特に西峰が険しい。でも慎重に行けば大丈夫だから。気を付けてね。」との貴重なアドバイスをいただきました。火口縁の「マタエ」というポイントに到着し、時計回りに御鉢巡りをスタート。まず西峰を目指しますが、いきなりクサリ場の岩登りとなりました。火口外側が切れ落ちていて高度感がやばい。慎重に登って無事に西峰に登頂。まずは1座目達成。さらに御鉢巡りの先に進みます。火口縁が大きく崩壊していて、大きな下りと上り返しがあります。ときどき藪の巻き道や岩場を乗り越えて進み、東峰にも登頂。本当は鶴見岳が見えるはずでしたがガスで何も見えず残念でした。ガレた道を下っていき、無事に御鉢巡り1周を終え、下山しました。



西峰へはけっこうな岩登り。高度感がやばい。

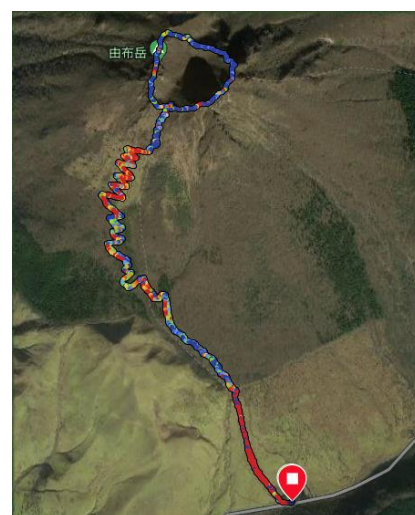


眼下には火山のうねった地形と湯布院の街

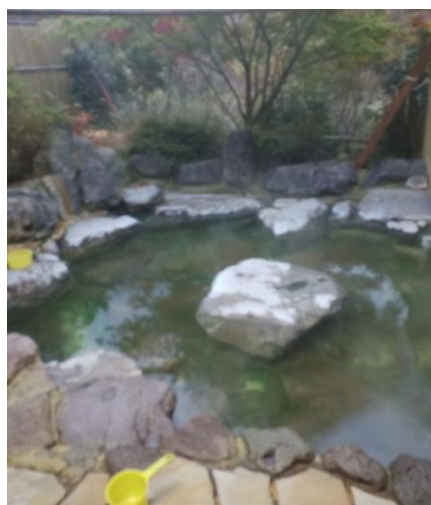
《ルート記録》 行動時間 4:15、総獲得標高 933m  
 由布岳正面登山口 11:50～マタエ 13:15 (登り 1h 25min)  
 御鉢巡り マタエ 13:15～西峰 13:35～東峰 14:20～マタエ 14:35(1周 1h 10min)  
 ～マタエ戻り 14:35～駐車場戻り 16:15 (下り 1h 40min)



西峰に登頂。他の人がいなくてスマホ自撮り。



下山後「塚原火口跡」を見学しました。山肌から白い蒸気がたなびく。火山度 MAX。興奮しました。



塚原温泉「火口乃泉」。透明な翡翠色のめずらしい温泉。強酸性と知らずに顔を洗ったら失敗、目に滲みて痛い。酸っぱかった。



## ■2日目 11月8日(火) 久住山(1786m)

朝食が一番大事なエネルギー、ホテルのビュッフェは嬉しい。大分のご当地グルメ、りゅうきゅう、だんご汁なども食べられて満足でした。さて今日はやまなみハイウェイのドライブで久住山へ向かいます。天気もばっちり。ルート途中で昨日登った由布岳の前に車を停めて、その姿を写真に収めました。ありがとうございます、またいつか来ます、と心の中で挨拶して先へ急ぎます。続いて金鱗湖(きんりんこ)に立ち寄ると、何人か三脚を立てたカメラマンが熱心に撮影しています。朝の湖面にかかる気嵐と、張り出した紅葉と橋の景色、たしかに美しいです。湯布院はどこが見どころかよく知らず、とりあえず「ゆふいん駅」を見に行くことに。リゾート列車「ゆふいんの森」号はここを走っているのか。あの緑色の列車を一度見てみたい。湯布院は高級温泉地と聞いていましたが、なるほど清潔で少しお洒落な雰囲気のある街でした。



昨日登った由布岳をまた違った角度から眺める。



金鱗湖。気嵐と紅葉と橋が美しい。



湯布院駅。列車と駅舎のトータルデザインの様です。



久住連山が近くなってきました。

牧ノ戸峠に到着、平日ですが車が多く登山者も割と多い。さあ登山開始。10:30、気温 13℃。見晴らしの良い尾根道を登っていきます。紅葉は終わってるようですが、樹木に覆われた広大な景色が爽快です。小学校の登山授業の子供たちが大グループで歩いていて賑やかです。と思っていたら、対向から迷彩服の自衛隊のグループが来ました。雰囲気が違います。すれ違うたびにお疲れ様です、ご苦労様です、と挨拶を交わします。こんな晴天のトレーニング山行なら景色も良くて、ひそかに楽しそう。道が平坦になりラクな道が続き、スタートから1時間半ほどで避難小屋のある広場に出ました。前方に見えていたピラミッド形の黒っぽい山が久住山だったと今頃になって気づきました。山の東側から回りこむように道がついていて、ここからひと登り頑張ります。スコリア(火山噴出の溶岩礫など)の堆積で油断すると足が取られて滑る、富士山の登りと似ています。12:45 山頂に到着。360度ぐるり景色が広がっています。





広大な風景を眺めながら尾根を歩く



迷彩服・ヘルメット姿の自衛隊の方々



山頂で会った佐賀県のお二人と



久住山の山頂



北九州のお姉さんと



山頂から北方面

複雑な起伏の地形、茶色い山の連なり。大きな風景に囲まれる。硫黄山は火山の噴出物で山肌が白くなっている。噴気も見える。九州の山、すごい場所だなー。景色を眺めながら昼食休憩にします。自然と登山者同士で話かける。佐賀県の男性2人から、「へー神奈川から。よく来たねー。登山かなりやってる風だね。九州の山はどうだい？」といった調子で声をかけられ、すぐ打ち解けた。北九州のお姉さんも会話に加わり「九重大橋は今紅葉がすごい綺麗、見たほうが良いわよ。見ごろはあと3日くらいらしいわ。阿蘇は大



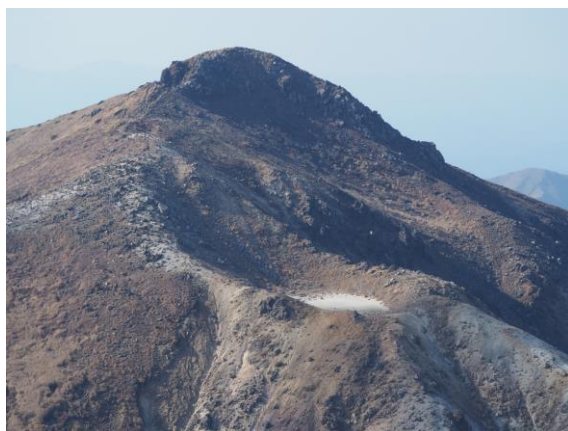
観峰が一番、全部見える。米塚もいい。そういえば富士山の犬室山きれいだったわ。行ったほうがいいわよ。」と勧めてくれました。私がチョコボールをよかったらどうぞと差し出すと、「あら、おばちゃんにお供えくれるのね、ありがとう」という返しに思わず笑ってしまいました。佐賀のおっちゃんが「北九州の女性はみんなこんな感じ」と教えてくれてまた笑った。また「阿蘇山はお釈迦様が寝ている姿、ってわかるかい？」と教えてくれました。明るくて楽しい人たちでした。久住山から東の尾根ルートを15分ほど進んだ後、北方向に谷に下ってまた登り返すと、緑色に輝く「御池」でした。御池の辺縁にある中岳と天狗ヶ城へ続けて登り、眺めを楽しみました。気になる噴気の上がる硫黄山を望遠撮影すると、灰黄色の地面に、黒く細長い建物や、小さな屋根付き作業場？があり、硫黄採取の施設でしょうか。危険そうです。



中岳山頂（1790m）より東方面



天狗ヶ城（1780m）より西方面



星生山（1762m）（天狗ヶ城から望遠撮影）



硫黄山（1580m）（天狗ヶ城から望遠撮影）

環状ルートの起点「久住分れの避難小屋」に戻り、あとは往路をたどって牧ノ戸峠の駐車場に戻りました。九重連山の魅力は、火山の複雑な地形のためいろいろなピークを渡り歩くことができ、それぞれ違う景色を楽しめることだと思いました。一日では回り切れなかった他のピークも訪ねてみたいと思いました。

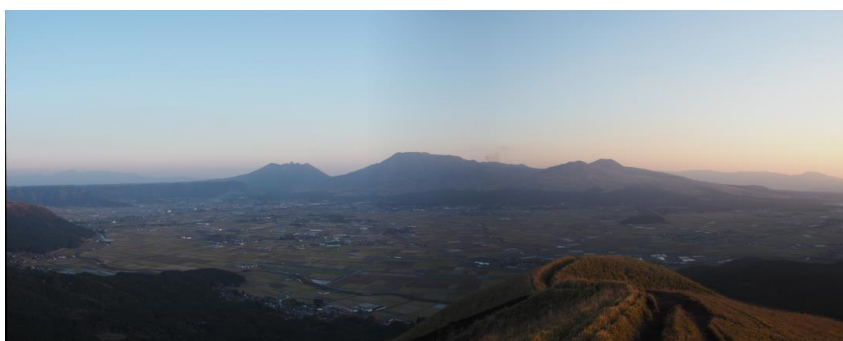


帰りルート途上の菅掛山（1503m）から東方面

《ルート記録》 行動時間 5h 45min、総獲得標高 819m

牧ノ戸峠駐車場 10:30～久住分れ 12:10～久住山山頂 12:45（休憩）13:10 発

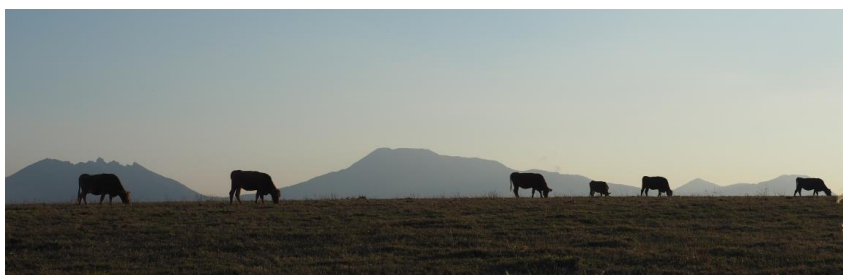
～御池 13:40～中岳 14:00～天狗ヶ城 14:15～久住分れ 14:40～牧ノ戸峠駐車場 16:00



下山後「大観峰」を訪ね、夕暮れの阿蘇五岳を眺めました。ここは阿蘇外輪山の最高地点 936m とのこと。



外輪山は巨大な崖。阿蘇カルデラは大陥没の爪痕。想像を絶します。



阿蘇の牧場の風景



皆既月食を撮影



### ■3日目 11月9日(水) 阿蘇山(1592m)

カルデラ盆地内の南阿蘇で一泊。目覚めると窓の外に阿蘇山が横たわっていて、美しい景色に心奪われました。今朝も良い天気。朝食をしっかりといただき出発。まずは「白川水源」に寄って阿蘇の天然水を汲ませてもらいました。阿蘇山の北側の仙酔峡登山口に向かう。カルデラの外輪山を登って下りる峠道を抜けて登山口に到着。ここは5月中旬にミヤマキリシマの花で一面ピンク色に覆われることから「峡谷に咲く花のあまりの美しさに仙人が酔いしれた」という逸話が生まれ「仙酔峡」の名前となったそうです。

さて登山開始。10:30、21℃。「馬鹿尾根」と呼ばれる長い急登。不規則な形状の溶岩のどこに手足を掛ければ良いか楽しみながら高度を上げ、1時間半ほどで稜線に出ました。盆地状の平原が高岳火口でした。



朝霞が低く漂う阿蘇五山



「白川水源」で名水を汲む。透明度がすごい。



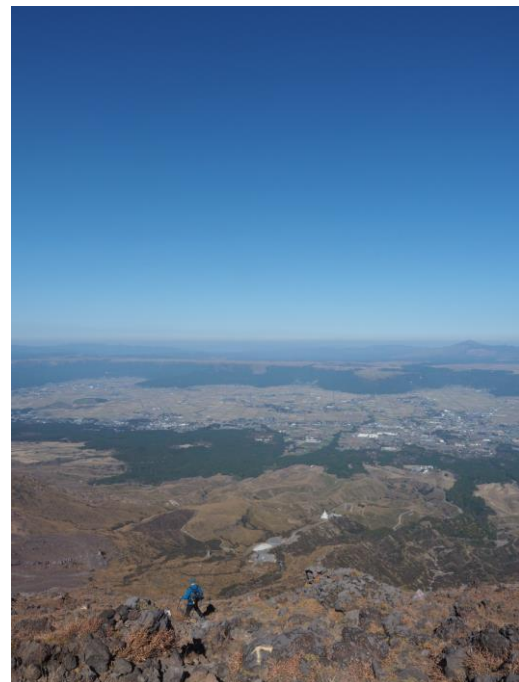
山の斜面が凹凸だらけ



仙酔峡の駐車場。古いロープウェイの支柱だけ残っている。駅舎の取り壊し工事中。



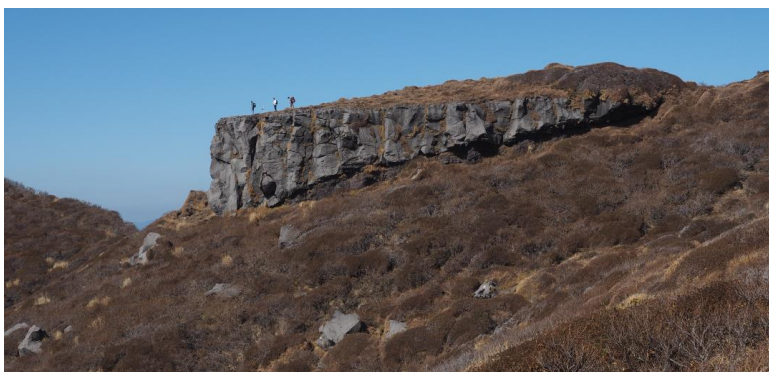
高温の火砕流で表面が溶けて再び固まった奇怪な溶岩をひたすら登る



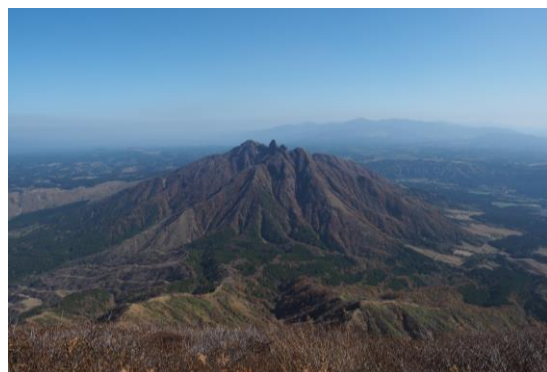
この景色は「宇宙から見た地球」に近いと思う



まず高岳東峰へ向かうと「天狗の舞台」が現れました。自然の岩の塊なのに整った形をしていて不思議です。お隣の山「根子岳」が近くに見えていて、これがまた悪の要塞のような奇怪な形です。高岳火口内に下りて、広大な風景の中を横断しました。そして阿蘇山の最高峰、高岳に登頂。フランス人とイギリス人の若者グループが休んでいて、少し話かけてみると、阿蘇山の火口見学をしてから登ってきたとのこと。火口見学は昨年11月の噴火以来中止と聞いていたのですが、なんと今日から再開とは、こんな幸運があるのですね。時間的に日没までギリギリ可能と判断して急いで出発しました。すぐに中岳に到着。崖下は、これはなんだ!?!という景色でした。巨大なスケールの盛り上がった土手、底の深い窪み、灰色の粉を振ったような大地の変色、そこから白い噴気が上がり、人間の土木工事とは違う、異質なものを感じました。



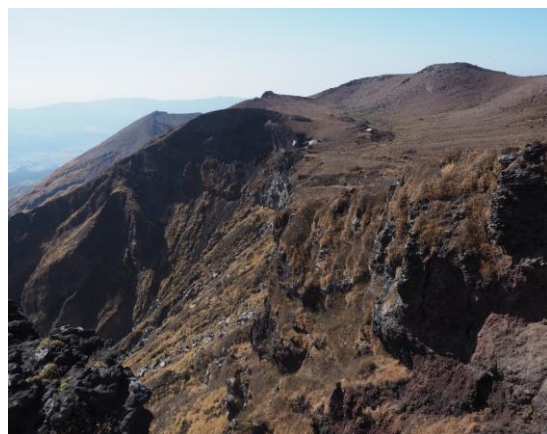
高岳東峰の「天狗の舞台」



根子岳



高岳の火口内を歩く。異世界にワープしたような景色。



南側の火口縁は崩壊している



阿蘇山「中岳火口群」 爆心地。凄まじい光景に言葉を失いました。



火口見学のためには、左手（南）の砂千里をまわって、火口丘の裏側（西側）に回り込まなければなりません。距離も高度差もそこそこありそうですが意を決して先を急ぎます。道が南へ進んだあと西に折れて急な岩の斜面を下って砂千里に出ました。こんな景色があるとは・・・ここが地球ではないような気がしてきます。やっと火口にたどり着きました。火口の底は深くてよく見えません。底には火口湖があり緑色の水面らしいのですが、噴気が多くて難しいようです。でも火口の巨大さを近くで体感できて大満足でした。急いでまた来た道を引き返し、中岳からはやさしいルートで仙酔峡登山口に下山しました。なんとか日没前に下りれてよかったです。



砂千里ヶ浜 まるで別の惑星に降り立ったような風景



遠くに白い噴気。道路や建物など人工物も見えてきた



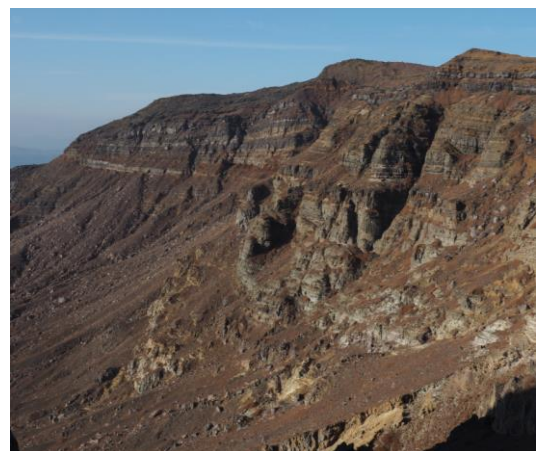
火口見学のそばには新しい避難用シェルターが設置



火口を間近にのぞき込む



月面かと思わせる風景

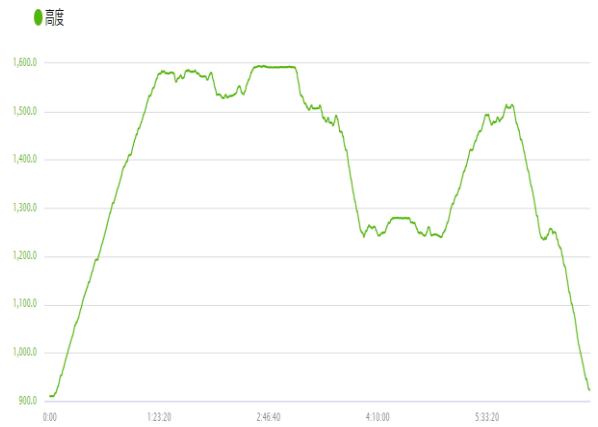


迫力の大岩壁





《ルート記録》 行動時間 7h、総獲得標高 1270m  
 仙酔峡駐車場 10:30～稜線 11:55～高岳東峰 12:20～月見小屋  
 12:45～高岳 13:10 休憩～中岳 13:50～14:40～火口見学 15:00  
 ～中岳 16:30～仙酔峡駐車場戻り 17:30

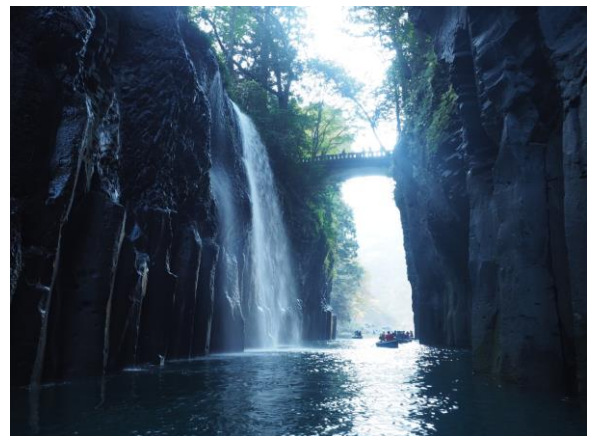


#### ■4日目 11月10日(木) 祖母山(1756m)

昨夜は高千穂峡に宿泊。早起きして高千穂神社に参拝したあと、ボートを借りて真名井の滝を見ました。柱状節理の岩壁に挟まれた川に、注ぎ落ちる滝、美しかったです。ひとりで見るなんてもったいないと思いましたが仕方ないです。観光でだいぶ時間を使いましたが、祖母山の北谷登山口に到着。10台ほどの駐車車です。登山開始は 11:00、17℃。最初は紅葉がきれいでしたが、標高があがると落葉した森になりました。



高千穂神社に参拝



高千穂峡の真名井の滝



下の方は紅葉が美しい



落葉していますが美しい森です



「千間平」で稜線に上がるとなだらかな尾根歩きになりましたが見晴らしはありません。「三県境」は大分・熊本・宮崎の接する地点となっている。突然広場に出たところが「国見峠」。祖母山の姿を初めて目にしました。そこから登りを頑張って35分、山頂に到着。先に5名の女性グループが食事休憩していました。私とは逆コースで風穴コースを登ってきたとのこと。風穴コースの様子を聞くと、梯子などあるけれど楽しく歩けるでしょう、との情報をもらいました。私も軽く昼食を取り、山並みを地図と照らし合わせて楽しみました。さて下山開始。梯子やロープの急な箇所もありましたが問題はない、また途中の「風穴」も折り重なった岩の間に人が入れるほどの空間があるだけのこと。いわゆる地点確認の通過ポイントですかね。そして無事に登山口駐車場に戻りました。森が綺麗な山でした。紅葉が終わっていたのが少し残念でした。



国見峠で、やっと祖母山の全体の姿が見えた



祖母山の山頂

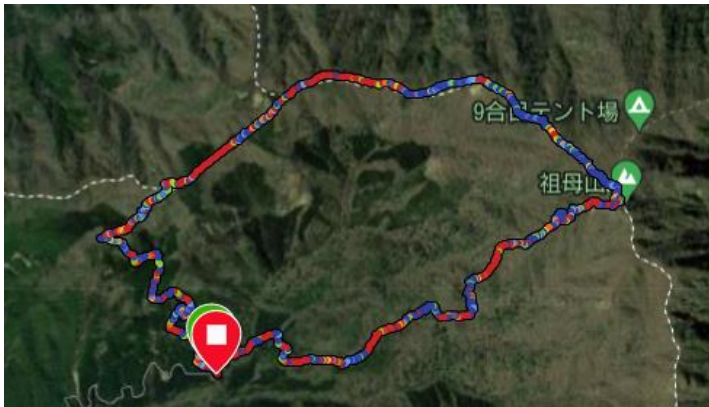


山頂からの景色





《ルート記録》 行動時間 3h 50min、総獲得標高 739m  
 北谷登山口 11:00～千間平 11:45～三県境 12:00  
 ～国見峠 12:15～祖母山山頂 12:50 (登り 1h 50min)  
 休憩 13:20 発～風穴 14:00～北谷登山口戻り 14:50 (下り 1h 30min)

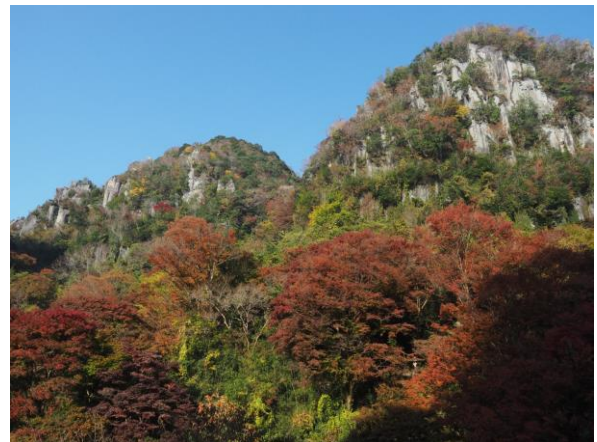


### ■5日目 11月11日(金) 観光

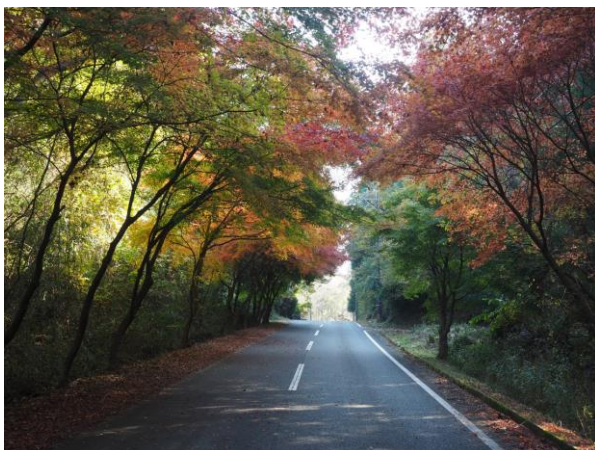
昨夜は耶馬溪(やばけい)に宿泊。昨日までに順調に4本の登山を終えて気持ちも軽くなり、最終日は無理せずゆっくり観光します。周囲の8つの岩峰群を一望できることから「一目八景(ひとめはっけい)」と言われる耶馬溪の景色。紅葉の最高の季節にここに来られたことに感謝です。



耶馬溪「一目八景展望台」より



切り立った岩峰と紅葉の取り合わせに見とれる



紅葉のトンネル&じゅうたん



耶馬溪ダム



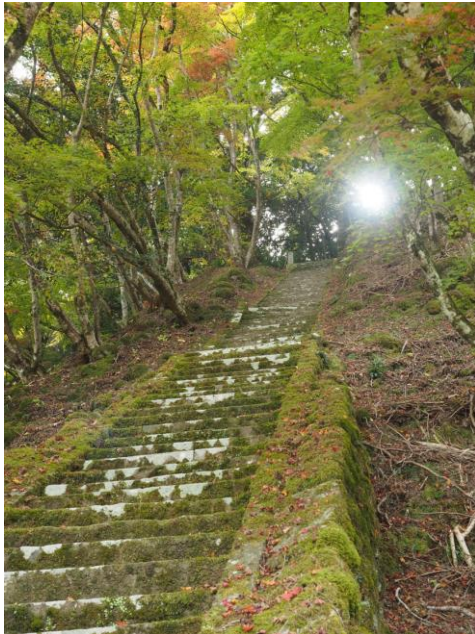
続いて、耶馬溪ダムと記念公園「溪石園」などを見て回りました。紅葉が美しい。



ダム事務所の下の斜面にも紅葉も見事



ダム記念公園「溪石園」



「御霊もみじ」 階段が一面もみじで覆われる。  
まだ時期が少し早かった様子。



「御霊もみじ」鳥居



耶馬溪橋（オランダ橋）石造りで趣がある



「青の洞門」（あおのどうもん）





「宇佐神宮」全国4万社ある八幡神社の総本宮



「富貴寺」大堂（国宝）

### ■まとめ

幸運にも5日間ずっと好天に恵まれました。当初予定の3座とおまけの1座を大変良いコンディションで登れました。運よく阿蘇火口も見学できました。楽しみだったやまなみハイウェイも走れました。巨大な阿蘇カルデラの外輪山の中と外を走りまわり、中央火口丘の阿蘇山も登れました。紅葉の美しい景色も堪能しました。見たかったもの、やりたかったことがたくさん叶い、充実の九州山旅となりました。すべてに感謝。

(了)